

議事概要「多度津町自分ごと化会議_第四回」

日時／場所	2024/10/14（月・祝）13：00～多度津町役場
参加者	委員（住民）21名
出席者	多度津町：丸尾町長、吉田政策観光課長、合田政策企画係長、坂本主事 （株）パブリックテクノロジーズ：中田、内記、奥山 （一社）構想日本：小瀬村、瀧口
オブザーバー	有限会社多度津タクシー 松岡氏

構想日本_小瀬村

- 本日は過去3回分を含めて、最終的な提案書を考える。
- 前回までは、町が行っている事業やこれからの地域交通について意見を交換した。
- 今回は今までの意見をまとめた提案書の初稿をベースに議論を重ねて、さらに深掘る。

多度津町_合田

- 町長への提案書提出は2/6(木)11:00～多度津町役場2階応接室にて行う。
- 前回のご意見・ご質問
 - まちのコイン「どっつ」と町の関係は？
 - 換金性がないので、地域交通の支払等には使えないが、デマンド交通利用者への「どっつ」のプレゼント等の活用の可能性はある。
 - チョイ来たドライバーへの謝礼はできないのか？
 - 住民ボランティアによる運営のため、町が運営方法を決定できない。
 - 謝礼については運輸局への確認が必要な可能性がある。
 - 会議をオンライン併用や動画配信できないか？
 - 今回は対話を重視したため現地開催のみとしたが、今後は、会議の性質により検討する。
- 町の方針
 - デマンド型交通の実証実験を令和7年度に行えるように準備を進めたい。
 - 事前予約型で区域運行を検討している。
 - 過大な投資とならないように運行形態、事業費を比較する。

構想日本_小瀬村

- 第一章では、「高齢者福祉タクシー事業」「買い物ツアー事業」「チョイ来た」について、事業概況と課題、解決策が記載されている。
- 第二章の地域交通のあり方の検討を第一章におくように構成変更する可能性がある。
 - 既存事業は対象者が限定されているが、自分ごと化会議で出た意見は対象者を限定しない新しい地域交通を考えるものが多かったため。
- 第三章には地域交通にとどまらない、町のことを考える大事な意見が会議中にもたくさん出たので、そちらを記載した。

(A 班・進行_小瀬村) ※当日議事メモ

- 小瀬村)
 - 本日は、新しい地域交通に関する課題・提案・アイデアについて議論したい。
 - 既存事業に関する意見・改善点については、既に多く頂戴している。
- 委員)
 - 新しい交通は是非導入してほしいが、まず周知が必要でないかと思う。周知しないと使ってもらえない。
- 小瀬村)
 - それを「個人ができること」「行政ができること」に紐解くとどうなるか？
 - 個人：広報を読んでもみる。聞いてみる。
 - 行政：読みやすい、目に止まるイラストを使用することなどを意識する。
- 委員)
 - 税金を使う意味について考えるべき。
 - わかりやすいモノ・言葉で周知する。
- 委員)
 - 制度や使い方について、お互いに教え合う場や人も必要。
- 委員)
 - 老人会や自治会にも協力を求めればいいのか。体験会まで出来ればさらに良い。
 - 委員) 非常に同意。
 - 委員) 回覧板なども使うと効果的。
- 委員)
 - 競合は考えなくてもいいのか。例えばタクシー会社。
 - 今はタクシーで病院に通っている人たちがいる。お客さんを奪うことにならないか。

- それが問題なければ、今タクシーを使っている人が、使ってくれるのではないか。
- 委員)
 - 丸亀市の病院には、受付の下にタクシー会社の番号が書いてある。そのように案内してくれるといい。
- 委員)
 - 人口が減少する中だと、成功が難しいのではないか。
 - 路線型バスであれば、学生なども使えていいのではないか。
 - 小瀬村) 学生のニーズについても考慮する必要がある。
- 委員)
 - 採算性はどのように考えればいいのか。どれくらい使われると、採算性が出るか。
 - 小瀬村) その点も、実証で検証する必要がある。
- 委員)
 - 障害者手帳保有者や足腰の悪い方は対象にできるのか？支援が必要のため 2 人分の料金がかかってしまうのか？
 - その辺りの制度設計も必要。
- 小瀬村)
 - そもそも「新たな地域交通の導入」については皆さんどう思っているのか？
 - 委員) まずはやってほしいなと思う。
 - 委員) 周知には手を尽くしてほしい。誰かに押し付けるのではなく、自分も協力したいと思う。
 - 皆さん、地域交通への関心の持ち方がこれまでと違うと思う。近隣の地域で何か始まったら、すごく気にすると思う。
 - 色んな自治体の事例も参考になると思う。
- 委員)
 - 広報誌を通じて冊子が配られるよりも、回覧板で回すのが一番効果的だと思う。
 - 委員) 友人同士の会話のタネにもなるといい。
- 委員)
 - 自分が免許返納した後に、毎日どんな生活になるかを想像してみた。湯楽里の施設利用者にも聞いてみた。
 - 一人一人で生活のパターンが違う。それらに対応できるような地域交通が実現できると良い。
 - 昔だったら、車は一家に一台だった。今は一人に一台。そうすると月に数万円以上費用がかかっている。それだったら、自家用車を使わずに公共交通で移動できてもいい。
 - 小瀬村) みんなが使える選択肢があることは重要。

(B 班・進行_瀧口) ※当日議事メモ

- 瀧口) 今日は既存 3 事業より新しい地域交通について深堀る。
- 瀧口) 書いてあることが大きいところもあった。例えば「65 歳→70 歳雇用(国の方針)」とか。
 - 委員) ボランティアの年齢も上がっているといった高齢化についての意見だと思う。
- 瀧口) 「もっと使いやすいシステム」とあるが、使いやすいを具体的にしたい。
 - 委員) 利用者登録に手間がかかる、予約がいっぱいだと使えないといったことだと思う。
- 瀧口) さっそく新しい地域交通を考えるか、3 事業についてもう少し話すか。
 - 委員) 今の事業でカバーできない若い世代の課題を整理してから、解決策になり得る新しい地域交通を考えたいほうがスムーズになりそう。
- 瀧口) 「買い物ツアー事業」の意見でも地域の解決策がわからないという回答も、なぜわからないのかより具体的に考えてもらえると嬉しい。

<新しい地域交通について>

- 委員) 新しい地域交通が始まった場合、今の 3 事業は縮小していくのか？
 - 瀧口) 今のところ縮小は考えてないと聞いているが、新しい地域交通がうまく行ってカバーできるなら整理もあり得る。
 - 町) まずは誰でも使える交通を実証実験で導入して、お互いの事業の兼ね合いをみていければと考えている。
- 瀧口) 事前予約型で区域運行についてはいかがでしょうか？
 - 委員) 広域というのは多度津町内のことなのか？
 - 瀧口) 実証実験についてはまだこれからなので、ここで意見を上げて町外へも運行可能になる可能性はある。
- 委員) 停留所を定めないというのは、予約して自宅まで来るということか？
 - 瀧口) 色々なパターンがある
 - 委員) 時間も 9 時ちょうどになるか 20 分すぎる可能性があるのか？
 - 町) 例えば相乗りだと少し遅れてしまうが、タクシーよりは安い料金になる。
 - 委員) 停留所を定めると、家から出られない人には不便だが、時間通り動きたい人には便利。
 - 委員) 古い町並みで道路が狭いので、マイクロバスが入れないなどあるので、地域で停留所や集合場所を決めたほうが運行しやすいと思う。

- 瀧口) 実証実験のパターンを変更する可能性もある。
 - 委員) 実証実験だが、各地の先行事例である程度は検討できると思うので来年、再来年と言わず早く導入してほしい。

- 委員) 広域というのはどのぐらいの範囲なのか？丸亀市から送迎で多度津町に働きにきている知り合いもいる。
 - 町) 範囲はまだ決めてないが、まずは多度津町内での交通を考えることが最初のステップだと思っている。
 - 委員) やはり公共交通機関が中心になるので、近隣の市町村の駅でも使える広域での運行が望ましい。
 - 町) 多度津町に何もない状態から近隣に頼むのは難しいので、町内でうまく整備してから近隣と協力体制を敷きたい。

- 委員) タクシー事業者と協力するらしいが、採算はとれるのか？
 - 町) 完全に利用料だけで運営できている市区町村は全国的に見てもほぼなさそう。公共交通というところで、町からのバックアップは考えている。利用者が増えて、財源負担がなく運用できるのは理想。

- 委員) 運行する車輛やドライバーもまだ決まってない？
 - 瀧口) それも検討段階だが、プロのタクシー運転手だと安心感がある。

- 委員) 乗り合いで最終地まで行くが、帰りはどうするのか？
 - 瀧口) 電話予約や AI を活用して効率よく配車したりもする。
 - 委員) スーパーで買物の間に待っていた事例を見た。
 - 委員) 同じ地域の人を誘って乗せるのも良さそう。
 - 瀧口) 仕様によっては予約が入っていたら乗せられないなどあるので、どんな形のシステムがよいか考えたい。

- 委員) 予約の仕方はアプリが多いのか？若い人は良いが高齢の人もいるので、出来ない人でも簡単に利用できる方法があったら良いと思う。
 - 瀧口) 電話予約を併用している所も多い。ただシステムを使ってもらえるほうが行政の負担は減るので、続いていく可能性は高まる。

- 委員) チョイ来たは高齢者にとっていい条件で乗れるが、利用者の条件が厳しい。

- 瀧口) 条件の緩和は今のところ聞いてない。新しい地域交通は介護者が同行していなかったり、利用料がかかるが、軽度な人には利用しやすい。
 - 委員) 4月に多度津町の住民になった。白方地区は交通の便がなく、商店もまったくないので、早くやってもらいたい。クラウドファンディングは使えないのか？
 - 瀧口) 予算の問題というよりは住民への理解や制度の部分が問題になってしまう。
- 瀧口) 実装されるために一人ひとりが何ができるかを考える。
 - 委員) 始めるにあたって誰をターゲットにするかで変わる。
 - 瀧口) 前提としてはみんなをターゲットに考えたい。
 - 委員) 例えば、定時定路線のコミュニティバス型だと学生も使いやすいそう。
 - 委員) 対象者は高齢者ではないか？通勤通学まで考えると話も広がりすぎる。
 - 瀧口) 絶対数で高齢者のほうが困ってる人は多いが、学生も困っている人はいる。
 - 委員) 子どもは親が車を持っていると思うので、高齢者を考えたほうが良いのでは？
 - 瀧口) 若い人も病気や怪我、家庭環境によっては送迎が難しいこともある。
 - 委員) 今は高齢者を対象に考えているが、ゆくゆくは対象者を増やしていきたい。現時点では高齢者の課題を解決するといったほうがわかりやすい。学生が部活動によって帰宅時間が違うといったこともあるので、利用の想定は難しそう。今までは、高齢者の意見を聞いたことがなかった。タクシーチケットのことも知らなかった。ただ、5%でも子どもを含めたみんなの公共交通を考えたい。
 - 委員) 今の時点ではターゲットを狭めないと予算が膨大になったり話が散らかってまとまらない可能性がある。
 - 瀧口) 学生にとってと、高齢者にとっての使いやすさを考えたい。現時点ではコミュニティバスを整えたとしても利用者の見込みは少ない。
 - 町) 実証実験では、基本的には学生から高齢者まで使えるようにするが、メインターゲットは交通弱者の方々。ひとつの施策で全てをカバーすることは難しいが、しっかりと固めてから段階的に検討していきたい。

(A 班・進行_小瀬村)

- 小瀬村)
 - まず一番良かったのは、これだけ多くの方が参加してくれたこと。
 - そして開催するたび、皆さんが色々調べて関心を持ってきてくれたこと。
- 委員)

- 多度津町は、右肩下がりという印象があった。
- 町の問題点がわかった。町がやってくれていることもよくわかった。
- 今回のテーマだった地域交通については、持続可能なものになってほしいと思う。
- 少しでも住みやすい・賑やかな町になってほしいと思う。

● 委員)

- スマートフォンを使えないと生活できない世の中になってきた。
- デジタル活用の議論も多かった。

● 委員)

- 自分のためにもなったし、参加して良かった。
- 町のことを考えるきっかけにもなった。
- 自分が高齢になった時に、少しでも参考になる話が聞けた。今後、町で色々始めれば、是非貢献していきたい。楽しみ。

● 委員)

- 参加して楽しかったし、刺激的だった。
- 長く住んでいる分、町の変遷も感じている。
- 自分が高齢になった時の不安もある中、ワクワクする話なども聞けた。

● 委員)

- 過疎化・高齢化・空き家が進む地域に住んでいる。
- 地域交通は、今日にでもすぐにでもほしい。
- 多くの町民で議論して、議員さんもきていて、町も考えている中で、早く進んでほしいなどと思う。
- 議員さんはもう少し来て欲しかった。

● 委員)

- 参加する中で色々学びがあった。自分が免許返納した時に役に立つ。自治会での取り組みも継続してほしいなどと思う。

● 委員)

- 4回とも参加した。
- 自分が高齢者となった時の生活について、色々考えるきっかけになった。

● 委員)

- たまたま委員に選ばれたが、町がやっていることに興味を持ち、参加した。
- このような取り組みは継続していてももらえればと思う。

● 委員)

- 夫婦2人での生活のため、10年20年後の生活で買い物などをどうしようか考え始めていたタイミングだった。

- 皆さんと議論ができて良かった。今後の取り組みがうまくいって、自分の生活にも活きれば良いなと思う。

● 委員)

- 他の委員さんの意見や、様々なサービスについて聞くことができて良かった。
- 交通以外の課題についても、考えていけるといいなと思う。

(B 班・進行_瀧口) ※当日議事メモ

● 委員)

- 埋め立て前の懐かしい景色を思い出す。住みよいのは良いが、豊かな自然を残していきたい。
- 町を存続させるのに高齢化をとめたいと思うときに交通の便が良くなる必要もあって、会議にも参加した。
- 自治会の加入者が少ない。獅子舞も 4 地区あったのが今は 1 地区のみ。
- これから自分ができることとしては、集まりに参加すること。
- 段々と住みづらくなっている。そこに課題感がある。

● 委員)

- いろいろな人の意見を聞いてよかった。
- それぞれ小さいエリアでしか生活していない。
- 多度津は住みやすい町と感じているが、住んでいる地域に子どもがいない。
- 高齢者とコミュニケーションをとりながらも、若い人たちを増やしていきたい。
- 大きな話でいえば移住を受け入れる環境づくり。
- そのために交通手段が重要。

● 委員)

- 多度津の施策に関われたことが嬉しい。
- 今後もゴミの問題などテーマによっては参加したい。
- 確か多度津町は消滅可能自治体には入ってなかった。
- 古い町で慣れ親しんでいるが住んでいる奥白方地区は、白方地区で小学生が 50 人もいない高齢化の地域。
- 昨日、奥白方の祭りがあったが、参加者も少ない。
- アンケートに自治会の役員だけでやってほしいという意見もあった。
- 役員 20 人と獅子舞保存会を合わせて 50 人ぐらいで祭りをやった。
- 自治会としても存続するかどうか不安がある。
- 母親が 99 歳で運転できず移動に付き合うのが大変。
- 歩けるのでデマンド等があれば非常に便利だとは思っていた。

● 委員)

- タクシーチケットは利用して知っていたが、チョイ来たや買い物ツアーは知らなかった
ので勉強になった。
- 各地域の集まりの参加者は減って、ほとんど高齢者が担っている。
- 80歳を超えて、家族、地域のお世話になる可能性はあるが、今は車の運転もできて不安
は感じていない。
- できるだけ迷惑をかけないように過ごしていきたい。デマンド交通がベターだと思う。
- できれば交通弱者のためのドアツードアも併合したシステムがほしい。

● 委員)

- 多度津生まれではなく町外から来たが、多度津の良さが議論を通じてわかった。
- 認知症のサポート会にも参加しているが、地域の人との関わりが大事。
- 昔からいる人がいての多度津だと思う。
- 小さいことからでも高齢者の手助けをしていきたい。

● 委員)

- 少子化問題で若い担い手が少なく人口も減少している。
- 移住してもらえそうな発信源があれば参加したい。
- 商店街でも空き店舗や空き家があって、喫茶店にリノベーションしたりと町民で活気
を取り戻せたらと思う。
- 町外に出るのに JR は便利だが駅まで行くのにデマンド交通やルートを作ってもらえたら
助かる。
- 健康に十分注意して、まちづくりを続けていく。

● 委員)

- テーマが地域交通ということで難しいと思ったが、自分でしっかり考えられた。
- 残念だったのが若い方がいなかったこと。
- 異なる世代の意見があるともっと違う議論もできたと思う。
- 自分にできることは、会議があったことや内容を周りに伝えること。
- 10年ほど前に親の介護で戻ってきた。
- 自身の子供が学校に通っていた時に比べて、子どもの数が半分に減っていた。
- 自治会も高齢化によって衰退しているので、実のある活動をして、若い人も町について
考える糸口をつくりたい。

● 委員)

- かつて祭りを復活させた時は十何人から最盛期はかなりの人数が参加するまでになっ
た。
- 現在はコロナもあって集まり自体もなくなった。

- 自治体の衰退も実感をもっている。
- 委員)
 - 敷居の高さはあったが少しでも変えることができたらと参加した。
 - 若い人の参加がなかったのが残念だった。
 - 休みに会議を設定していたので、若い人が参加することを想定はしていたのでは。
 - 託児スペースを設けてみてもよかった。
 - 多度津町は鉄道に関しては便利だと思う。
 - 町内のアクセスの問題で便利さがなくなっている。
 - 新しい地域交通で解決できそうなのは良かった。
 - 現実的ではないが老人ホームと学童を近くにして日頃から交流できると良い。
 - 病院にいかななくてもいいような仕組みができたらと思う。
- 委員)
 - 今の事業の課題の洗い出しをしたが、新しい地域交通ができてもうまく併用して使えると良いと思う。
 - 子ども会も減ってきているが、地域の大人の人が熱いサポートをしてくれている。
 - 子どもが大きくなったときには自分も積極的に参加したい。
 - 介護予防の仕事もしているので、新しい地域交通ができたときにちゃんと使える元気な人が増えると良いと思う。
- 委員)
 - 多度津は資源が豊富で人を呼ぶ力がある。
 - 個人でできることがあれば協力できる。

構想日本_小瀬村

- 最初は制度を変えてもらえるか話していた。
- それがだんだんと、高齢者だけの問題ではないと視野が広がっていた。
- 前は丸亀市のチラシ、今回は坂出市の事例の新聞の切り抜きを持ってきてくれた。
- まさに自分ごと化できたということ。
- 将来にわたって自分がどうなるか。
- 楽しく自分の町のことを考えられるのは素敵なこと。
- 持続することが大事だと意見がたくさん出た。
- 自助、互助で続いていくことを応援している。

構想日本_瀧口

- 新しい地域交通について、今は困っていないから考えないではなく、将来どうなるかという視点を持って議論できるようになった。
- 地域交通というひとつのテーマに知恵を持ち寄って考えることが、地域のムード作りにつながっていく。

多度津町長 丸尾様

- ランダムに選ばれたみなさまの生の声、意見をもとに施策を考えていく。
- 提案書も期待している。
- 公共交通については町としてずっと考えてきた。
- 過去にアンケートを取ったときには、コミュニティバスを走らせてほしいという結果が出たが、その内容は、「家から近いところに停留所がほしい。」「乗ったらすぐに目的地まで着いてほしい」といったものであった。そういった内容を見てタクシー型が良いと思っていた。
- 今日で会議は一旦の区切りだが、終わったわけではなく、地域交通についてデマンドやその先にはライドシェアの検討もある。
- これから行う予定の実証実験でも協力いただけたら嬉しい。